

設置の前に

■ 電源について

単相100V電源工事を行い、定格15A以上の100V用アース端子付きコンセントを設置してください。

■ 接地工事について

- 電気機器にはD種の接地工事を行うことが法令で義務付けられています。
D種接地工事を必ず実施してください。なお、接地工事は必ず電気工事士の資格を持った方が行ってください。
- 次のようなところにはアース線を接続しないでください。
 - 水道管：配管の途中が塩化ビニル管の場合、アースされません。
 - ガス管：爆発や引火の可能性があります。
 - 電話線・避雷針：落電時、大きな電流が流れ危険です。

⚠ 注意

電源プラグの取扱い

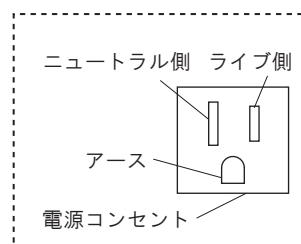
電源プラグは、ほこりの付着がないことを確認し、がたつきのないように刃の根元まで確実に差し込んでください。
ほこりが付着したり、接続が不完全な場合は感電や火災の原因となります。

電源コードの取扱い

電源コードに無理な力をかけたり、加工、ねじり、曲げなどしないでください。
また重い物を乗せたり、挟み込んだ場合、電源コードが破損し、感電や火災の原因となります。

コンセントの取扱い

コンセントは単独で使用し、巾木用には必ずアース端子付きコンセントを使用してください。
たこ足配線にすると、分岐コンセント部が異常発熱して発火することがあります。



■ 床面

- 床面は必ず水平を確保してください。
- 床面は、取付け部分に凹凸がないよう平滑にしてください。
- 床面材料は、防水材または防水加工したもの、もしくは床面仕上げ剤で防水加工して使用してください。
(洗髪時に水はねがあります。)
- 配管立上について

給湯・給水	Rc 1/2 "	床面立ち上げ配管	立ち上げ寸法	給湯：100mm	給水：100mm
排水	VU40	床面立ち上げ配管	立ち上げ寸法	120mm	

- 床面仕上げがタイル等の素材の場合、シャンプーユニット取付時のボルト締め込みにより、「割れ」が発生します。
この場合、製品固定位置図および型紙を参考に取付部分は合板、モルタル等の素材に変更してください。
- 床面には以下の強度が必要です。
 - 木製板の場合、ベニヤ厚30mm以上
 - モルタル床の場合、モルタル厚50mm以上
 - 特殊な床(石張り等)の場合、設定位置に上記の強度を確保した土台が必要です。

■ 壁面について

- 機器本体は、壁にトラスタッピングねじで固定します。
- 壁面取付のための壁面下地は12mm厚コンパネ以上の強度が必要です。
石膏ボードや12mm以下のベニヤの場合、壁面固定ビス位置に板厚12mm程度の合板などの木枠を入れて補強してください。
- 壁面仕上げは、メラミン等の防水性の高い材料を使用してください。(シャンプー時の水はねが考えられます。)

■ 漏水対策について

- 階上設置される場合は、必ず防水処置(防水工事、ステンレス鋼板製のパンの設置、もしくは漏水センサーの設置等)を行ってください。
- 配管立ち上げ部の開口部と配管との隙間は必ずコーキング剤等でふさいでください。

■ 配管施工について

ここに書かれた事項は、配管施工に関する重要な内容です。
この内容を十分に確認した上で、正しい配管工事をお願いいたします。

- ・本製品を設置されるときは、『タカラグループ給排水設備工事標準』、および本書の『配管施工上の注意』に基づいて配管施工を行ってください。
- ・注意を怠って配管されますと、ミキシングが満足に働かず、一定の温度のお湯が得られないことがあります。
- ・本製品は室内専用です。設置は必ず室内に行ってください。

■ 配管施工上の注意

- 給水(一次給水)配管
 - ・市水道直圧管の場合、各水道局指定の工事店に依頼し、その地域の“水道局施工基準”等の法規に従って工事を行ってください。
 - ・市水道直圧管以外(高架水槽下り給水管等)の場合、その地域の“水道局施工基準”等の法規に従って工事を行ってください。
- 給水配管には錆の発生する管材材料は使用しないでください。
原則としてV P管または、その地域の指定材料をご使用ください。
- 給湯配管には原則として脱酸銅管Lタイプを使用してください。
- 給湯・給水配管は原則として同径同圧にしてください。
- 管の切断面は必ずリーマをかけてバリ取りをしてください。
- 空気溜りの原因となる逆U字配管(鳥居配管)は避けてください。
- 給湯・給水管内の配管くず・ゴミ・砂・油はドラブルの原因になりますので、必ず除去してから配管接続をしてください。
- 配管接続を行い、通水テスト後にシャワーヘッドの掃除をしてください。
- 排水管の勾配は、排水管径φ 75未満は1/50以上、φ 75以上は1/100以上にしてください。
- 湯・水を逆配管しないでください。
逆配管は水栓金具の温度調節不良の原因になり、やけどの危険があるなどトラブルの原因となります。
- 給湯機からの給湯配管は、抵抗を少なくするため最短距離にしてください。
長くすると温度変化やお湯の出が悪くなる原因になります。
- 配管後は、必ず保温材を巻いてください。
- 温水ボイラーの配管要領について
 - ・給湯本管・給水本管は原則として同径同圧にしてください。
 - ・温水ボイラー設置については、必ず専門業者に施工依頼してください。
- アンカー位置を避けて立ち上げ配管を行なってください。

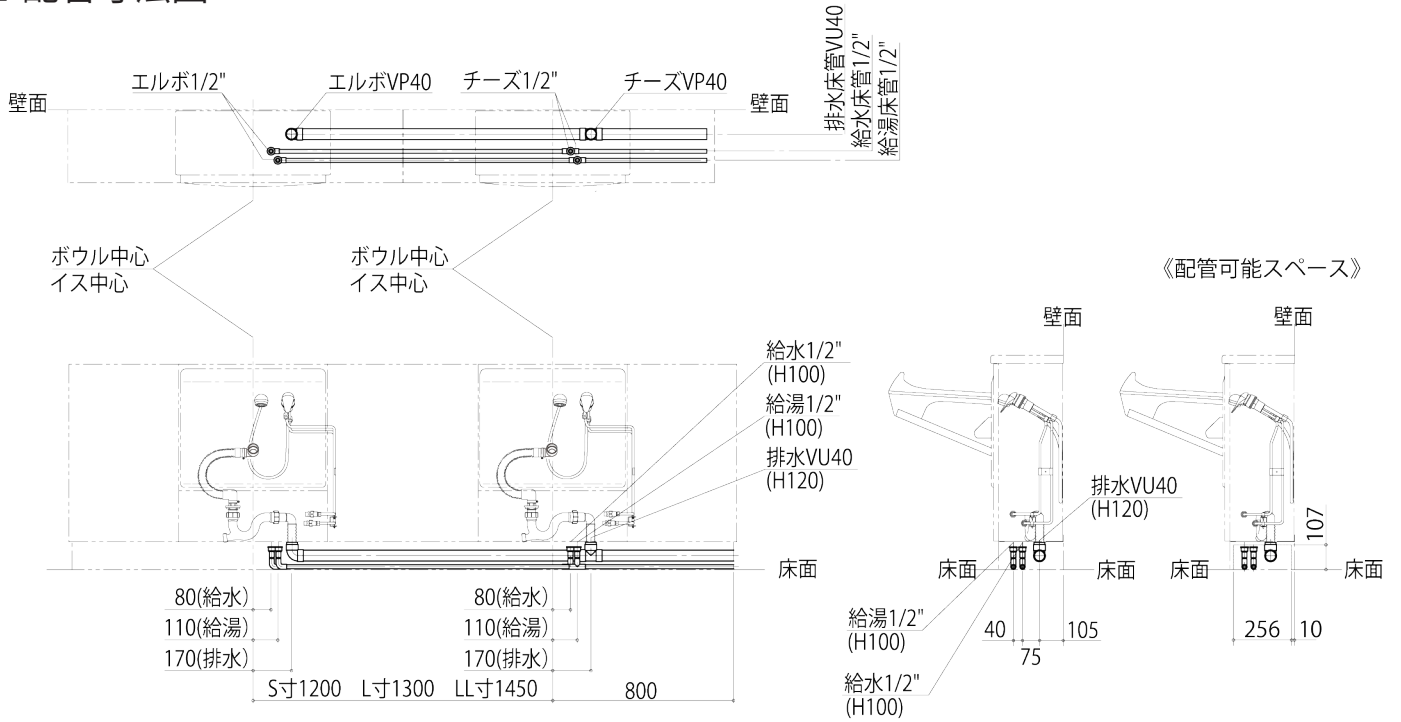
使用条件

■ 使用給湯・給水条件

使用水	・上水道水(飲料不可の井戸水やサビ・砂を含んだ水は使用しないでください。) ・硬度が80ppm以上の場合、機器本体へのスケール詰まりを予防するため、軟水器による処理を行ってください。また、飲料可能な井戸水の場合、シャンプー時に泡が立ちにくい場合がありますので、同様に軟水器による処理を行ってください。
給湯・給水圧力	・0.1~0.4MPa(1~4kgf/cm ²)の範囲にしてください。また、複数台を同時に使用する場合でも0.1MPa(1kgf/cm ²)以下にならないようにしてください。 ・給水圧力≧給湯圧力にしてください。 ・給湯圧力と給水圧力の差は、0.2MPa(2kgf/cm ²)以内にしてください。
機器への給湯温度	・給湯温度は60℃以下にしてください。 ・使用シャワー温度より10℃以上高くしてください。
給湯機	・給湯機は、理美容サロン専用の暖流システムのご使用をおすすめします。その場合の施工方法は、暖流に付属の『サロン専用給湯システム暖流工事の手引き』を参照してください。 ・瞬間湯沸かし器をご使用の場合は、16号以上を使用してください。(洗髪能力は瞬間湯沸かし器1台につき、サロンコンソール 機器本体1台です。) ・貯湯式ボイラーをご使用の場合は、貯湯式ボイラー説明書を参照してください。 ・上記指定の給湯温度以上の高温の流体(蒸気)を流すと、給湯管が破損する恐れがありますので、給湯管に蒸気発生装置を接続し、高温の蒸気を発生させないでください。

仕様

■ 配管寸法図



■ 外観寸法図

